

1.計画の主旨

東淀川区は、地理的に淀川と安威川・神崎川に挟まれた地盤の低い地域であり、過去に幾多の災害により浸水した経験がある。このため、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を契機として、区民の水害・地震に対する意識が一層強くなっている。

さらに、今世紀前半にも「東海・東南海・南海地震」が発生する可能性が高いといわれている。「自分の命は自分で守る」、「自分たちのまちは自分たちで守る」ことが防災の基本であるとの認識にたつて、淡路地域においては、ワークショップを開催し、地域住民、防災専門家と意見交換を行い、地域住民自らが防災マップを作成し、地域の災害特性を踏まえた、地域ならではの防災・減災対策を策定する「地域防災計画」を策定し、「自然災害に強いまちづくり」をめざします。

2.地域の特性

2-1.東淀川区の概況

東淀川区は淀川の下流に位置し、神崎川・安威川と淀川に挟まれた平野の地形である。

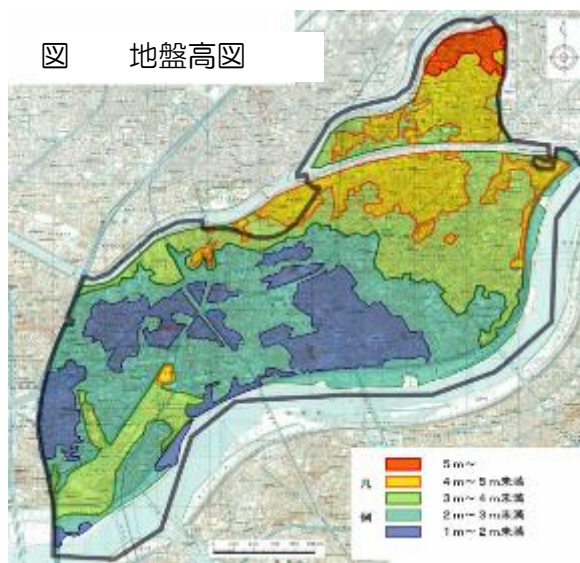
標高は、海拔 1 m～5 m と低く、北東部で 4 m～5 m、中部は 1 m～2 m、南西部で 1 m～4 m などとなっている。

全体が、淀川等の氾濫により形成された沖積層で泥・砂・礫などよりなる地盤で、未固結の軟弱な堆積層が表層に広がっている。

人口は約 17 万人で、約 9 万世帯が暮らしており、平均世帯人員は 1.9 人/世帯で、人口密度は 130 人/ha と高密度な市街地を形成している。

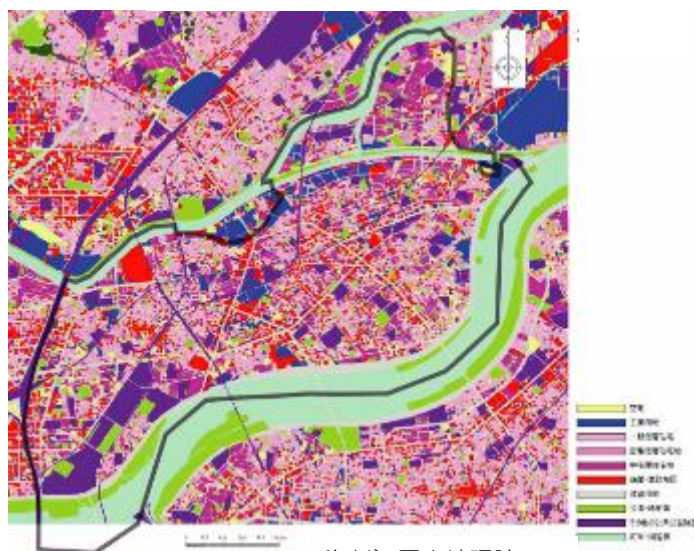
土地利用では、低層住宅を主体とし、北部や西部などには中高層住宅が多くみられる。幹線道路沿いや、駅前などには商業・業務施設が多く、河川沿いなどには工業施設が立地している。

図 地盤高図



作図) (株) ランドシステム研究所、岡本

図 土地利用図



資料) 国土地理院

2-2.自然環境

(1)地盤高

淡路地域(以下、「本地域」という)の地盤の高さは、標高1m～4mの低平な平野の地形で、南部から中部にかけて特に低く、西部から北部にかけては3m～4mのわずかに高い土地がみられる。

(2)地 盤

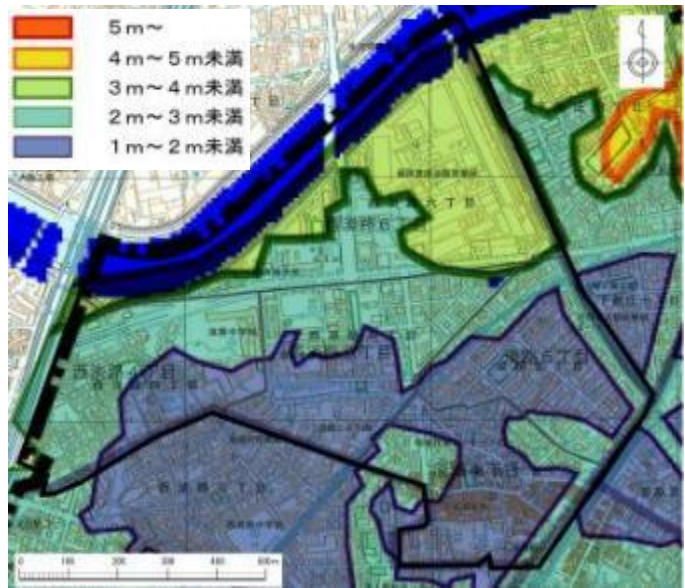
本地域の地盤は、淀川などの河川により運搬された砂や泥などが堆積した沖積層が厚く堆積している。

この地層は未固結であり、地盤は軟弱で地震時などには特に揺れやすい。

(3)河 川

本地域は、南東方約1.3kmに淀川が流れ、北西方は神崎川に面している。本地域は河川に挟まれた土地である。明治時代後期に新淀川の開削が完成し、それまでの蛇行した中津川に比べて治水安全性が飛躍的に向上したが、現在においても、河川に挟まれた本地域は、水害の危険性が高いといえる。

図 地盤高図



作図) ランドシステム研究所、岡本

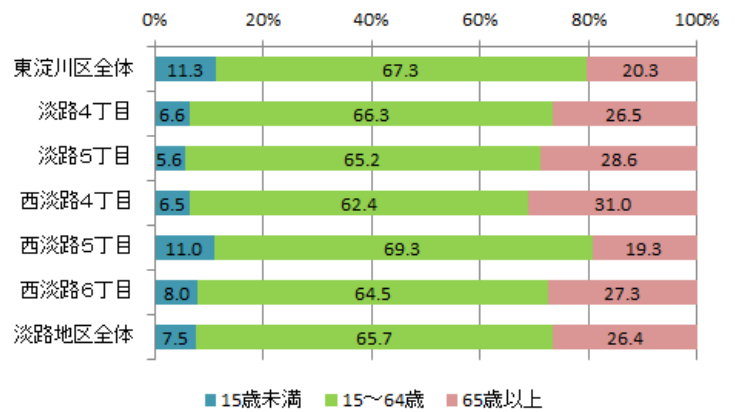
1-2.社会環境

(1)人口・世帯数

本地域の人口は、2010年国勢調査によれば、8,229人で、本地域の年齢別人口は、次のグラフに示すように、西淡路4丁目が高齢化率が31.0%と最も高く、次いで淡路5丁目以て28.6%などの順となっている。

東淀川区全体と比較すれば、高齢化率は区全体では20.3%であり、本地域の高齢化率は、区平均と比べて26.4%と高い傾向にある。

図 年齢別・町別人口比



資料) 国勢調査 2010年